

花のチカラ 緑のココロ

2019年 春号

花の咲く音



今年の1月11日から福岡と埼玉の園芸福祉士の人達と台湾に行ってきました。目的は、台中市で開催されている「台中フローラ国際花博覧会」の見学と台湾園藝福祉推廣協會設立4周年の事例発表大会への参加です。表題の『花の咲く音』は、台中花博のテーマで、日常の何気ない変化に気づき大事にする。即ち物の豊かさより心の豊かさを重視し、幸せを感じることを目指しています。この園芸福祉の思想と相通じるテーマの花博の感想

については、福岡市の山崎博子さんに感想を寄稿していただきました。また、翌日の台湾大学は、約100名の参加者に、台湾と中国四川省および日本からプログラム事例の発表や体験が行われ、埼玉の渋谷雅史さんからの寄稿を以下にご紹介します。



花博は3つの会場に分かれており、私たちは最も大きな后里馬場森林会場のメイン施設「花舞館」を中心に楽しみました。蘭の花を使った大胆なデザイン、二階からも見下ろせるようになっていますが、何をイメージされているのか分かりませんが、大きなクラゲのようにも見えます。生け花作品も多く、国が変われば作品も違います。私たちの活動に取り入れたいものがたくさんあります。屋外の各国の庭園エリアには、日本からも苔庭が出展されていました。そこを維持管理されているのは、2016年「台湾園藝福祉推廣協會」創立一周年記念シンポジウムで日本発表者の通訳をされた東京農大造園科卒業の方です。その方が出店されているおでん屋さんで昼食でした。「2010台北花博」以来、園芸福祉を通して台湾と交流ができることに感謝しています。

(園芸福祉ふくおかネット 山崎博子記)

園藝福祉紓壓益康工作坊に参加して

台中花博を満喫した翌日は園藝福祉紓壓益康工作坊に参加。本場の刀削麺で腹ごしらえしてから台湾大学に向かうと会場はすでに満席状態、熱気に満ち溢れています。私たちの持ち時間は1時間。園藝福祉認知症予防講座の紹介、福岡での活動事例発表、お勧めプログラムのデモを行いました。日本の事例を一言も聞き逃すまい見逃すまいとする真剣な眼差しを目の当たりにして、十数年前無我夢中で園芸福祉を始めた頃を思い出しました。你好と謝謝しか話せずもどかしい思い出しましたが、同じ植物を愛する者同士、言葉は通じなくても心は通じ合えることを肌で感じる事ができました。最後には感謝状まで頂いて、、、台湾園藝福祉推廣協會の皆さま、通訳をしていただいた李さん、真的謝謝、再見面吧。(渋谷雅史記)



今回の訪台に際しては、毎回の通り台湾園藝福祉推廣協會の張理事長(台湾大学教授)をはじめ、多くの方々特に李理事には打合せから通訳までお世話いただき、有意義で刺激的な経験をさせていただきました。紙面を借りてお礼申しあげます。

さて、本年の園藝福祉シンポジウムは、6月15日に東京で開催いたします。詳細やお申し込みはシンポジウム開催案内ちらしをご覧ください。また、NPOの通常総会を当日同会場で、午前に開催いたします。正会員の方には、4月下旬までに総会案内をご送付いたします。

(文責：協会事務局 粕谷芳則)

都立特別支援学校知的障害教育外部専門員の派遣

昨年度、東京都立特別支援学校より委嘱を受け、障害者の就労支援に経験豊富な園芸福祉士3名が作業学習(農園芸班)課程における都立特別支援学校知的障害教育外部専門員として野菜や花苗の栽培技術指導を行って参りました。この作業学習は「働くために必要な知識・技能・態度・習慣を育てる」「社会生活や職業生活に必要な基礎的能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成を図る」「社会生活や職業生活に必要な技能や態度の定着を図る」ことを目的とし、7種類の作業が設定されています。野菜・花・ハーブの種まき～管理～収穫、野菜・花苗・加工品の販売等が農園芸班の主な作業内容です。学年ごとに園芸福祉士が1名ずつ担当し、生徒と作業を共にしてきたところです。職業教育の現場で園芸福祉士が活躍できるモデルとなるよう、本年度も引き続き3名には外部専門員として従事していただく予定です。

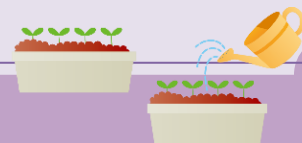
外部専門員 安田 真澄さんより

私は2年生の実習担当でした。畑での野菜栽培から温室内の花卉栽培まで、多種多様な作業を先生方の指導の下、生徒と共に実施。障害の程度が異なる上、天候による体調・気分の変化が大きく、作業に参加できない生徒が毎回います。ただ一旦作業が始まれば、同じ作業を継続できる力、細やかさ、丁寧さといった農園芸に求められる資質を大いに発揮できる生徒が多い事に驚嘆！しかし、就農を薦めたくとも、受け入れ先がほぼ無い現実。障害者をサポートし企業・農家をつなぐジョブコーチの重要性・必要性を改めて実感した1年でした。



外部専門員 杉浦 啓泰さんより

私は1年生の農園芸班の外部専門員として技術指導をしました。8名の方はそれぞれの個性があり、トマトなどの誘引、草取り、サイネリアなどの種まき、追肥、鉢上げ、寄せ植え他、作業説明をすれば時折の声掛けだけでできる方、すぐに飽きてしまう方、細かな作業が苦手で単純な土作りに集中する方、体調が悪くなり保健室へ戻る方など、農園芸の指導だけでなく、見守りの重要性を認識しました。授業開始時に比べ1年経つと、植物が種から生長し花や実をつけると同じように、コミュニケーションの取り方の成長を感じることができました。



新しい園芸福祉士の仲間たち

昨秋、園芸福祉士に認定された方々をご紹介します。今後のますますのご活躍を期待しています。

埼玉県

伊藤 優里様



千葉県

関屋 麻里子様



東京都

野村 光伸様 新川 久磨様 坪 祥子様
高橋 教子様 寺岡 佐和子様



神奈川県

三橋 裕子様
日吉 弘子様



新潟県

若林 眞理子様



長野県

中柄 房子様



岐阜県

村上 千恵様



三重県

大川 千晶様



和歌山県

児玉 久和様



岡山県

田中 ツル子様



広島県

伊藤 雅榮様
瀬戸口 淳子様



福岡県

橋本 佳子様 米倉 治美様 平山 政子様
北野 康子様 河村 光江様 田中 節子様
北野 多美子様 諫山 みどり様



沖縄県

仲間 英満様



サービス付き高齢者向け住宅での園芸福祉活動

都内3ヶ所のサービス付き高齢者向け住宅での園芸福祉活動が4月で3年目に入りました。これまで15名の初級園芸福祉士、園芸福祉士が交代制でそれぞれの施設で月1〜3回、入居者の皆さんと一緒に花・野菜・ハーブなどの種まき、植付け、手入れ、収穫、料理、クラフトなどを楽しんできました。材料代が一回一人500円と限られた予算の中、毎回工夫を凝らしたプログラムが企画され、入居者の皆さんからは大変喜ばれています。参加人数も回を追うごとに増え、園芸福祉の楽しさが伝わっていることを実感しています。



コキアハロウィン飾り

材 料

軽かる粘土 2色（赤・黄）ブリキの器
シール、コキア（箒草）、スポンジ
ボンド、リボン、カラーテープ、爪楊枝等

作り方

- 1 ブリキの器にシールを貼る。
- 2 赤黄色の粘土を手に取り色がカボチャ色になるまで良く混ぜ合わせ艶がでるまで丸める。
- 3 顔部分にカラーテープで目・口を付ける。
- 4 爪楊枝にボンドを付け顔を固定。スポンジに挿す。
- 5 コキアにリボンを結びスポンジに挿す。（切り落とし箒形も可）



チジミ作り

材 料

ニラ・人参・玉ねぎ・チヂミ粉・ジャガイモ

作り方

- 1 野菜を収穫して洗い、4〜5cmに切る。
- 2 ジャガイモをすりおろす。
- 3 切った野菜とチヂミ粉とすりおろしたジャガイモを良く混ぜ合わせる。
- 4 フライパン中火で両面を焼く。

すりおろしたジャガイモ
入るとモチモチとして
美味しいよ〜



初級園芸福祉士 姜 亨叔さんより

毎月1回参加し、園芸福祉士として活動させていただきました。未熟な知識で大丈夫かと不安もありましたが先輩福祉士の皆様の助けもあり、私にとって楽しい学びの場となりました。プログラムを実施するにあたって準備段階の大変さと様々な参加者に寄り添うことの難しさを感じることもありました。しかしこの活動を通して多くの方が四季の移り変わりや植物についての会話を多くされており、その中で和やかな時間を過ごすことができました。このような機会を頂けたことに感謝いたします。



初級園芸福祉士 秋田ゆう子さんより

今まで園芸福祉として活動する機会がなく2年前、月に1回この活動の話を戴きました。始めてみると月に3回行っていました。園芸福祉の本当の活動がそこにありました。野菜・花の種まき、苗植え込み、育てる過程、収穫と試食に続き1サイクルをその時に皆様と共有して楽しい時間を過ごします。収穫した野菜は茹でて和え方もその都度工夫も沢山あり、甘くて野菜そのまの味を楽しみながら皆様の笑顔がいっぱいなのです。皆様は植物を育てている意識が高く、いつもお花・野菜の様子を見てくださっています。植物の過程を楽しむ素晴らしい活動だと感じています。

この春のおすすめの一冊

こんな夜更けにバナナかよ

筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち

渡辺一史著 文春文庫 880円+税

自分のことを自分でできない生き方には、尊厳がないのだろうか？ 重度の筋ジストロフィー患者の鹿野靖明さんと、彼を支える学生や主婦たち約40名のボランティアの日常を描いた渾身のノンフィクション。人工呼吸器をつけた病の極限化で、人間的自由を貫こうとした重度身体障害者と、さまざまな思いから介護の現場に集ったボランティアたち。「介護する者、される者」の関係は、ともに支え合いエゴをぶつけ合う壮絶な「戦場」とも言えるものだった——。今日の現代の若者の苦悩と介護・福祉をめぐる問題のすべてが凝縮されている。講談社ノンフィクション賞と大宅壮一ノンフィクション賞をダブル受賞した介護・福祉の現場で読み継がれる名著。



協会行事カレンダー

- 4月 初級園芸福祉士認定試験合格発表
資格更新手続き締切
- 5月 初級園芸福祉士資格登録手続き締切
- 6月 年間活動アンケート提出締切
総会・シンポジウム
(15日 於:東京都世田谷区
三茶しゃれなあどホール)
- 9月 園芸福祉士認定審査
- 10月 園芸福祉士認定者発表
- 2月 初級園芸福祉士認定試験
- 3月 資格更新手続き開始

詳細や日程については、HPで最新情報をお知らせしていますのでそちらをご確認ください。

コラム 市民農園万国記

～見られなかった台湾の市民農園～

多肉は
台湾でも人気



店が続くよ
どこまでも



巻頭頁に記した通り、1月中旬に台湾に行ってきました。このコラムに訪問記を載せるべきですが、台中市の花博や台湾大学での大会などのスケジュールがあり、郊外の市民農園がある地域まで行くことができませんでした。そこで、台北市農會（市の外郭団体：市民農園を所管）が公表している資料に基づき紹介します。

人口約280万人の台北市で公的な市民農園は、現在15農園で計1,173区画あります。市では、1989年から市民の余暇や健康のため、市民農園整備を推進しており、一区画は約30㎡で、耕作実習費用は800～1,200元/月（3,000～4,500円/月）、4ヶ月単位で貸し出しています。日本の市民農園と比較して見ると、市の人口規模からして区画数が少なく（1割以下）、面積は同程度か若干小さいです。利用料金は、日本の料金を月単位に換算すると2～3倍台北が高い設定です。一年中耕作可能な台湾だからかも知れません。ホームページを見る範囲では、日本の住宅地域にある普通の市民農園と同じ形態のようです。

残りの紙面で、市民が立ち寄る花市をご紹介します。この市場は、台北市大安区で地下鉄（MRT）の森林公園駅から徒歩数分にあり、名称は『建國假日花市（Jianguo Holiday Flower Market）』で、月曜日から金曜日までは高速道路高架下の駐車場の場所で毎週末に車を撤去し、約400mの花屋通りになります。売っているのは、植木や盆栽から、鉢花、多肉、エアープランツ、花材や園芸資材、野菜、種など様々で、何カ所かにお茶屋や軽食店もありますが、切り花はあまり有りませんでした。同行した園芸福祉士の皆さんは、時間を忘れて楽しまれていましたが、植物や種は（土を含めて）、検疫の関係からそのまま日本に持ち込むことができないことから、“買えない”“残念”を持って帰りました。（粕谷）

求む！各地・各人の活動情報

地域組織や個人の園芸福祉活動の情報を事務局宛にお送りください。また、下記 mail アドレスにご連絡ください。会報などはPDFファイルを添付してメールしていただければ皆様に広報させていただきます。

HP アドレス：<http://www.engeifukusi.com/>

mail アドレス：kyoukai@engeifukusi.com

正会員を募集しています

日本園芸福祉普及協会は、NPO法人です。NPO法人は、正会員で成り立つ組織です。協会の正会員の内70%以上の方は、初級園芸福祉士の資格を取られた後に正会員になられた方達です。多くの方に正会員になっていただき、協会運営にお力添えをお願いいたします。

おすすめの一冊

ただ今、会報で紹介させていただくおすすめの本を募集しています。みなさんのおすすめの一冊をぜひお知らせください。ただし、園芸福祉に関連する、あるいは関連すると思われる本に限らせていただきます。お待ちしております！！

編集後記

旧暦4月8日は「卯月八日（うづきようか）」と呼び田の神様や山の神様を迎え、お米や作物の豊かな実りを願う風習があるそうです。「お山始め」「花見八日」などとも呼ばれます。この日には農事をしてはならないとされ「卯月八日に種まかず」と言われるのだとか。西日本では「天道花（てんどうばな）」といい、竹竿の先に山に咲く花を結びつけ庭先に高く掲げて、山の神様が迷子にならないよう目印にする風習があるそうです。ちなみに2019年の旧暦4月8日は5月12日にあたります。

（今井）

NPO法人日本園芸福祉普及協会

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58

TEL: 03-3266-0666

FAX: 03-3266-0667